

HETA NO YOKO ZUKI

織





ダーツ！ さーんっ！ にーつ！ いーちつ！

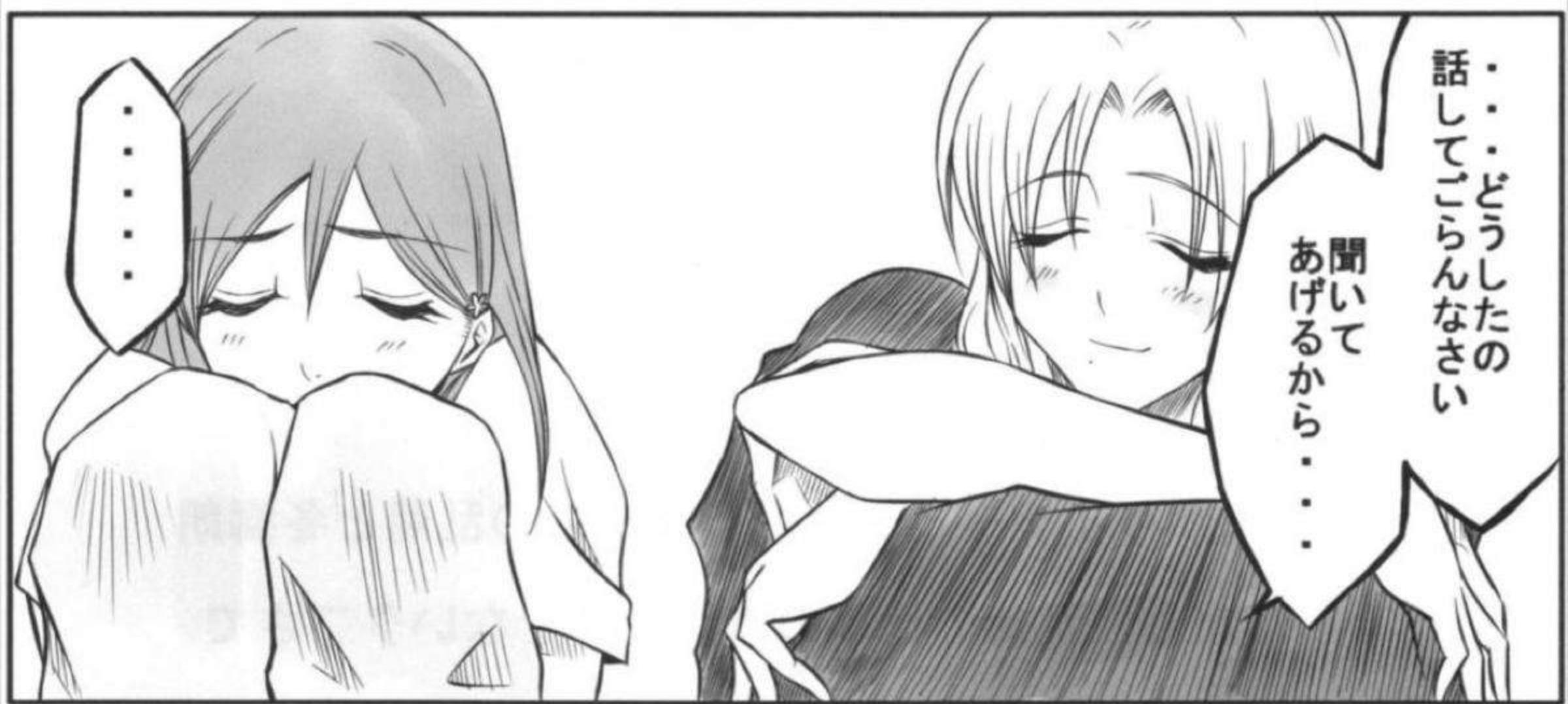
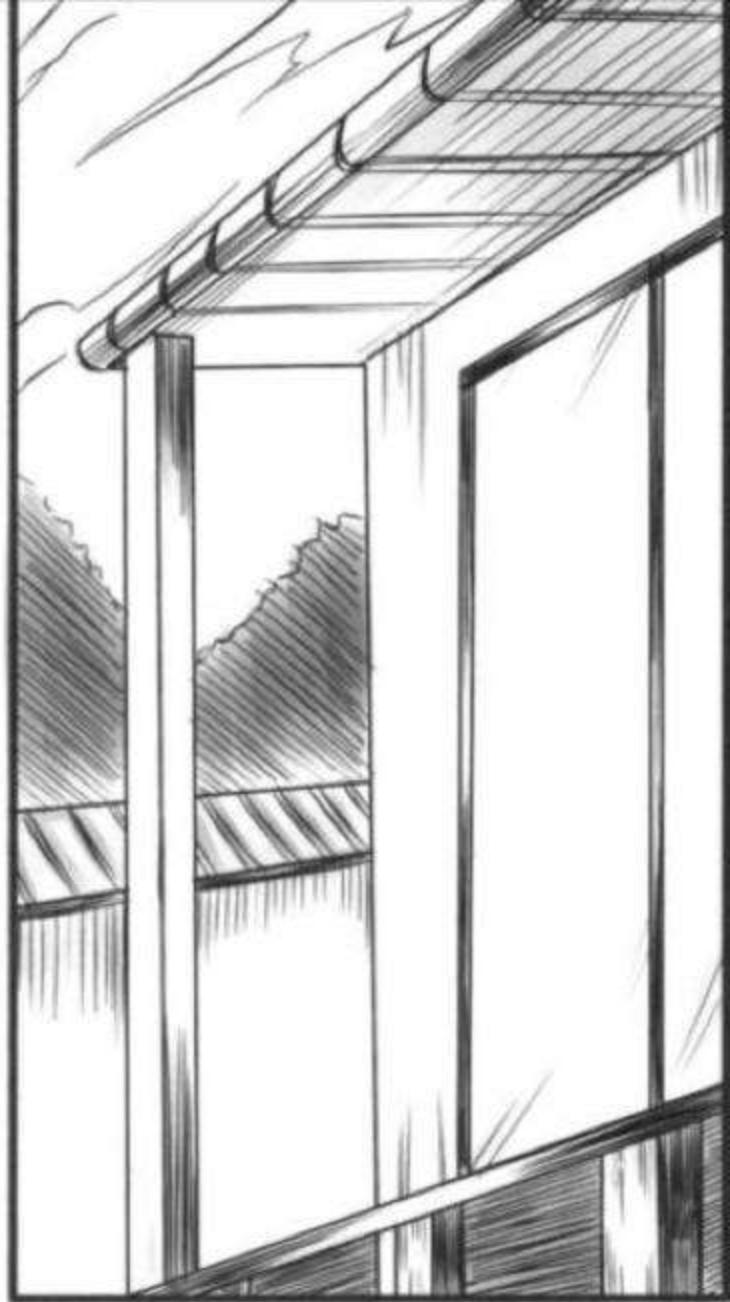
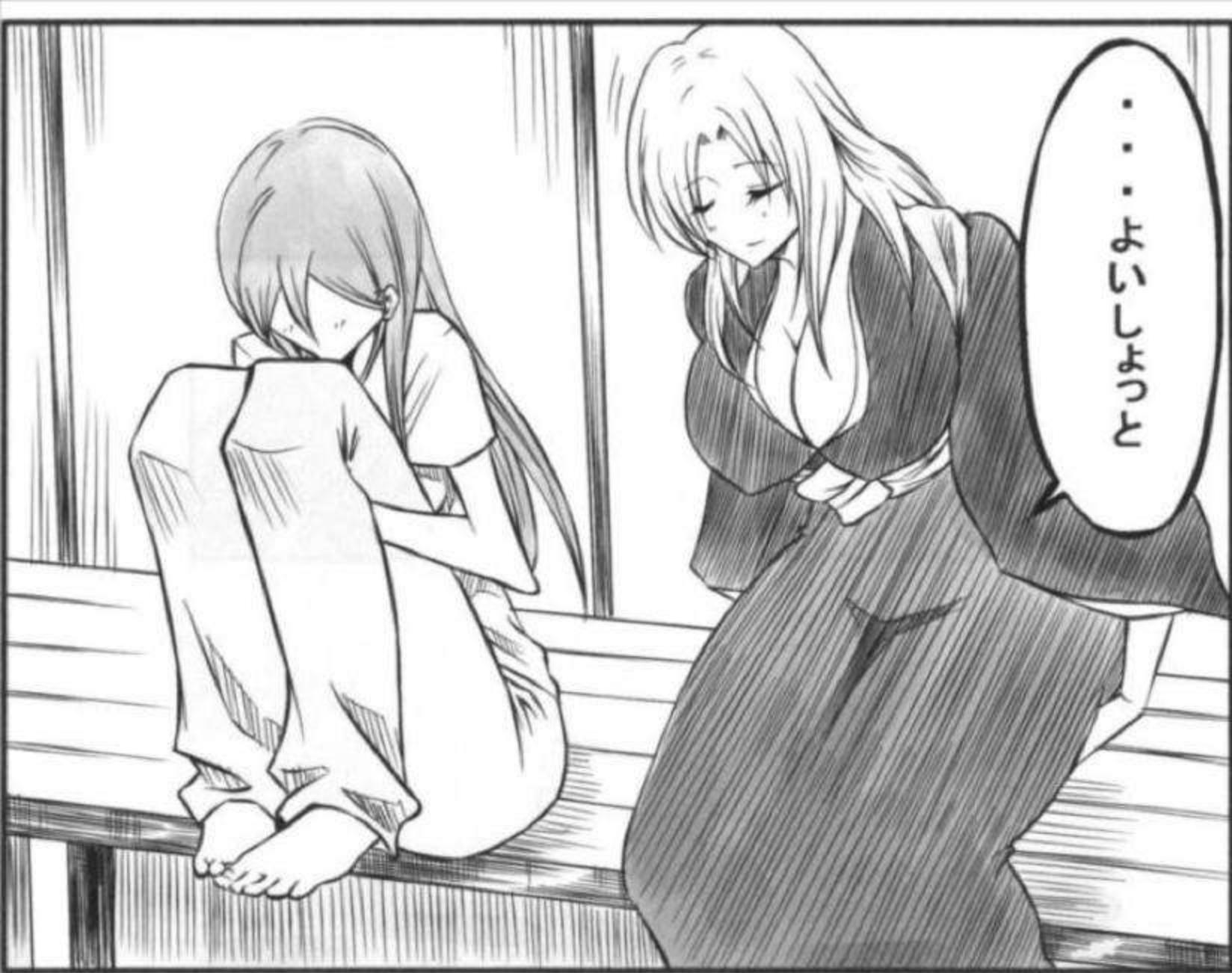
### 前回のあらすじ

すっかりイチャイチャパラダイスの乱菊と冬獅郎  
しかし、乱菊の仕事の時には見せないタフさで  
ノックダウン寸前の冬獅郎。

「ずっと私のターン」

「もうやめて！ 隊長のＨＰはもう〇よ！！」（誰だ。笑）

一人満足した乱菊は疲れ果てて寝てしまった  
冬獅郎を残してお散歩へ  
そこで、落ち込んでいる織姫と出会う。



黒崎君に  
見られてる  
…



朽木さん  
大好きなんの  
事…

…朽木さん  
命がかかる  
大変な時だったのに…

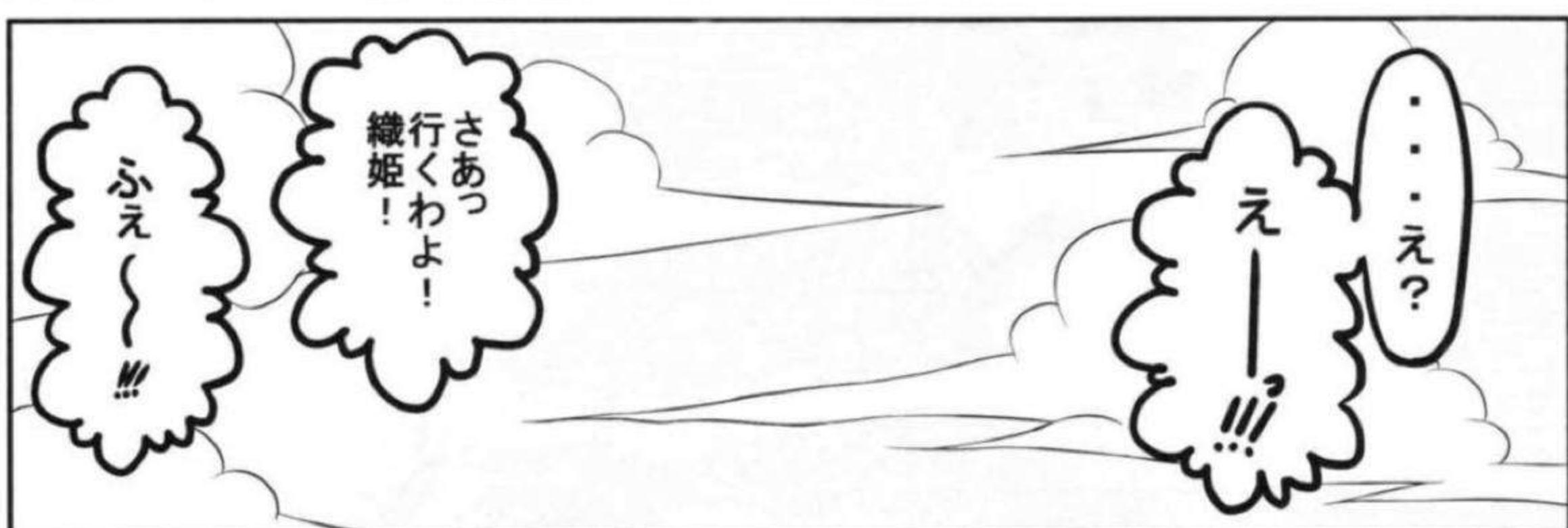


…よっと

…最低だ







何ですか・・・？

ちょっとアンタに  
頼み事があつてね

・・・頼み事？

ホラあんたも  
隠れてないで  
きなさい！

乱菊さん  
ちよつ・・・

ふえくん  
黒崎くん・・・

イツ・・・井上  
なんて格好してんだ？

乱菊さん  
一体  
なんんで  
すか？  
これは

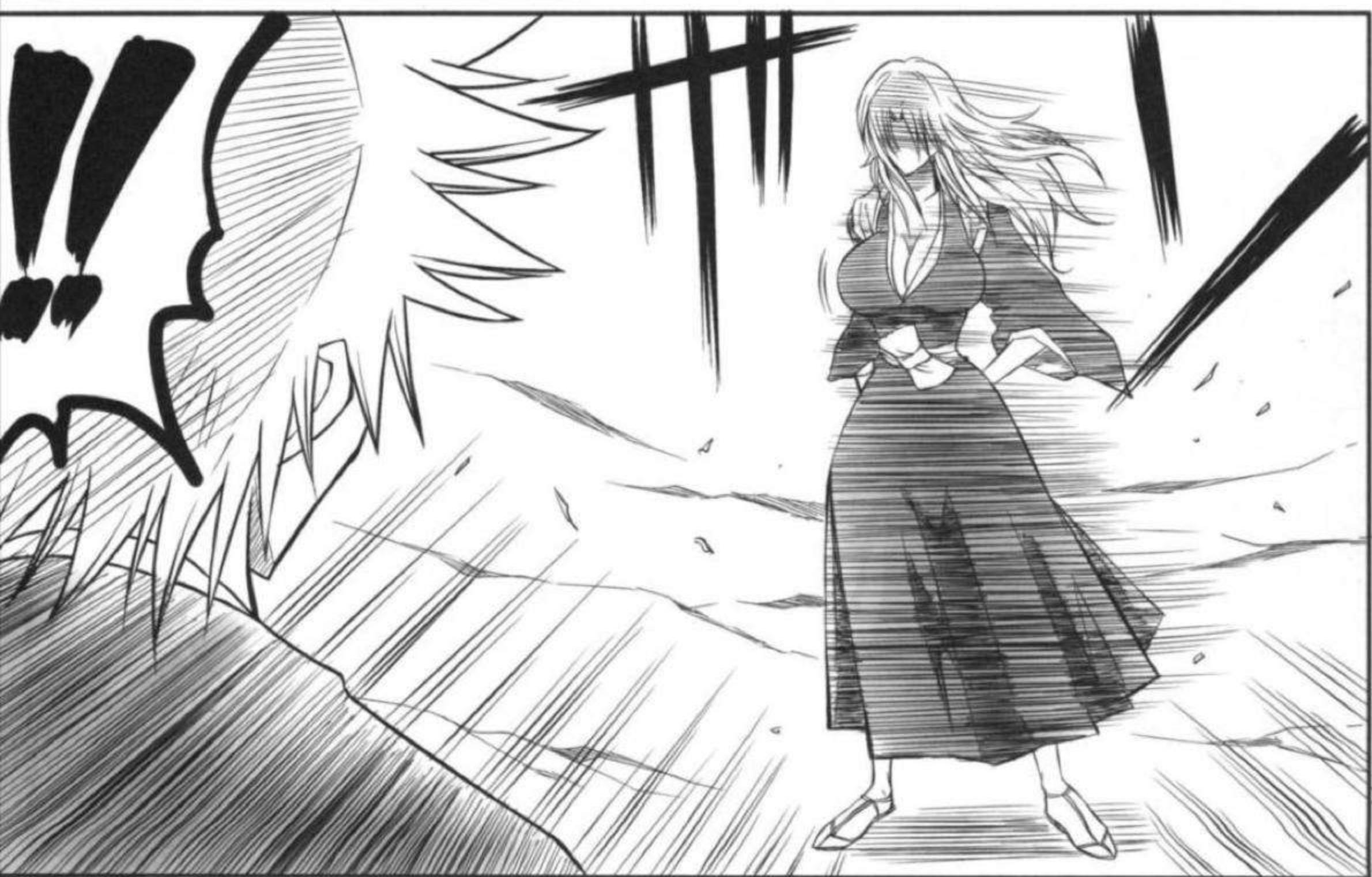
ちやっかり  
見てる(笑)

凄い事言つて  
るな  
サラつと  
あんたッ！

いや・・・ちょっと  
アンタに織姫を  
抱いてもらおうと思つて

・・・とおりあえず  
なんかやバそくなので  
逃げる！

甘い・・・



副隊長かよんとに  
アントンタほんとに  
・・・つて

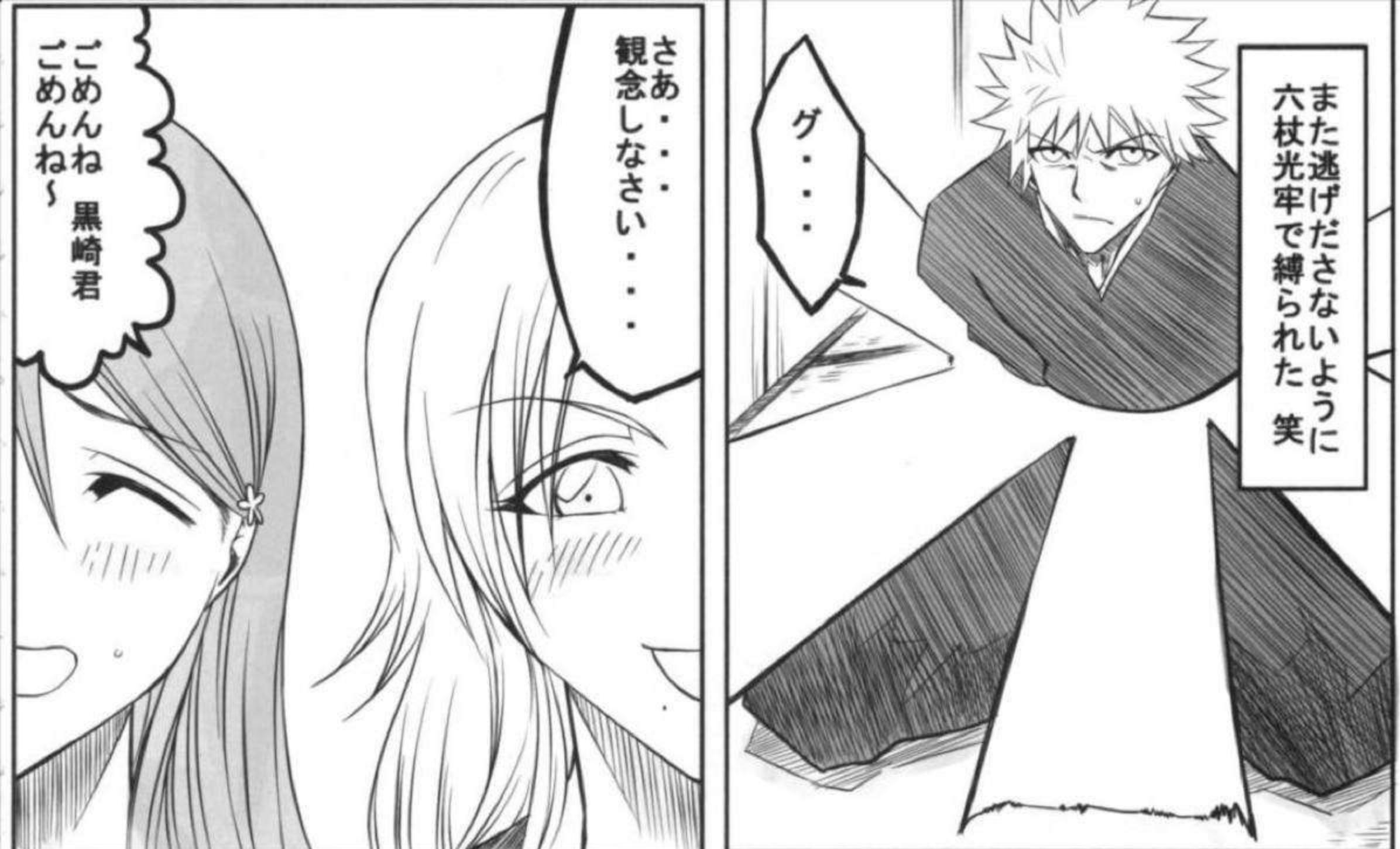
速かつたぞ！  
白哉より

ここの私がから  
逃げようなんて  
千年早いわよん

・・・だと？

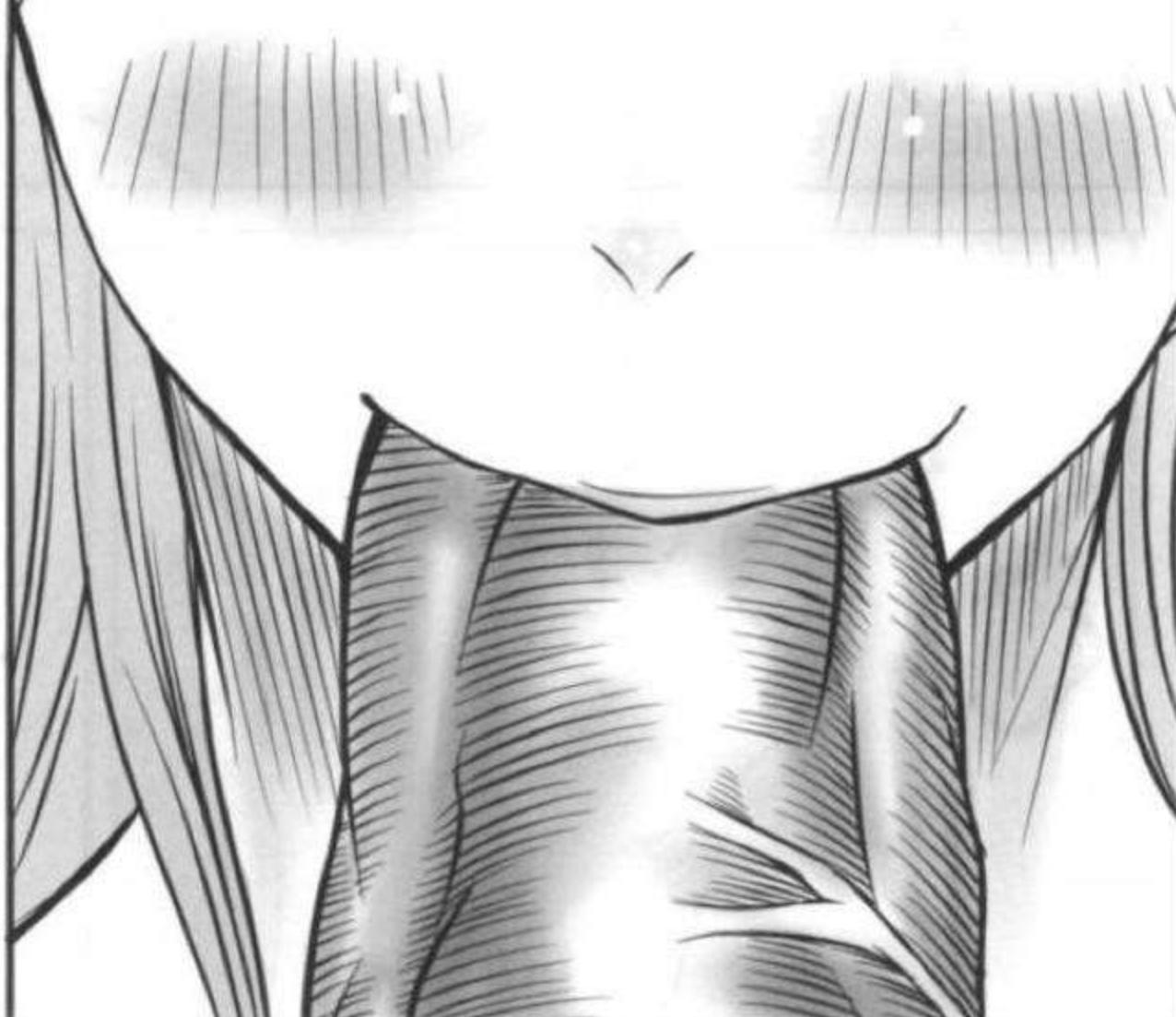
・・・何







才黒こ  
チ崎れ  
ン君が  
チの  
ン・  
・



織姫  
・・・上手よ



忘舐ウラ筋を  
忘れぬるのを  
でも  
ね

ふあい…

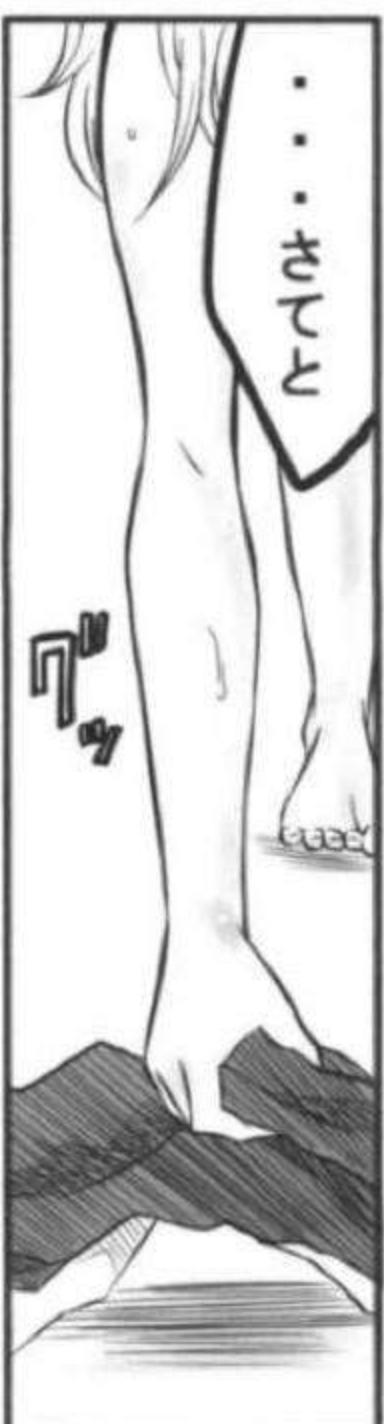
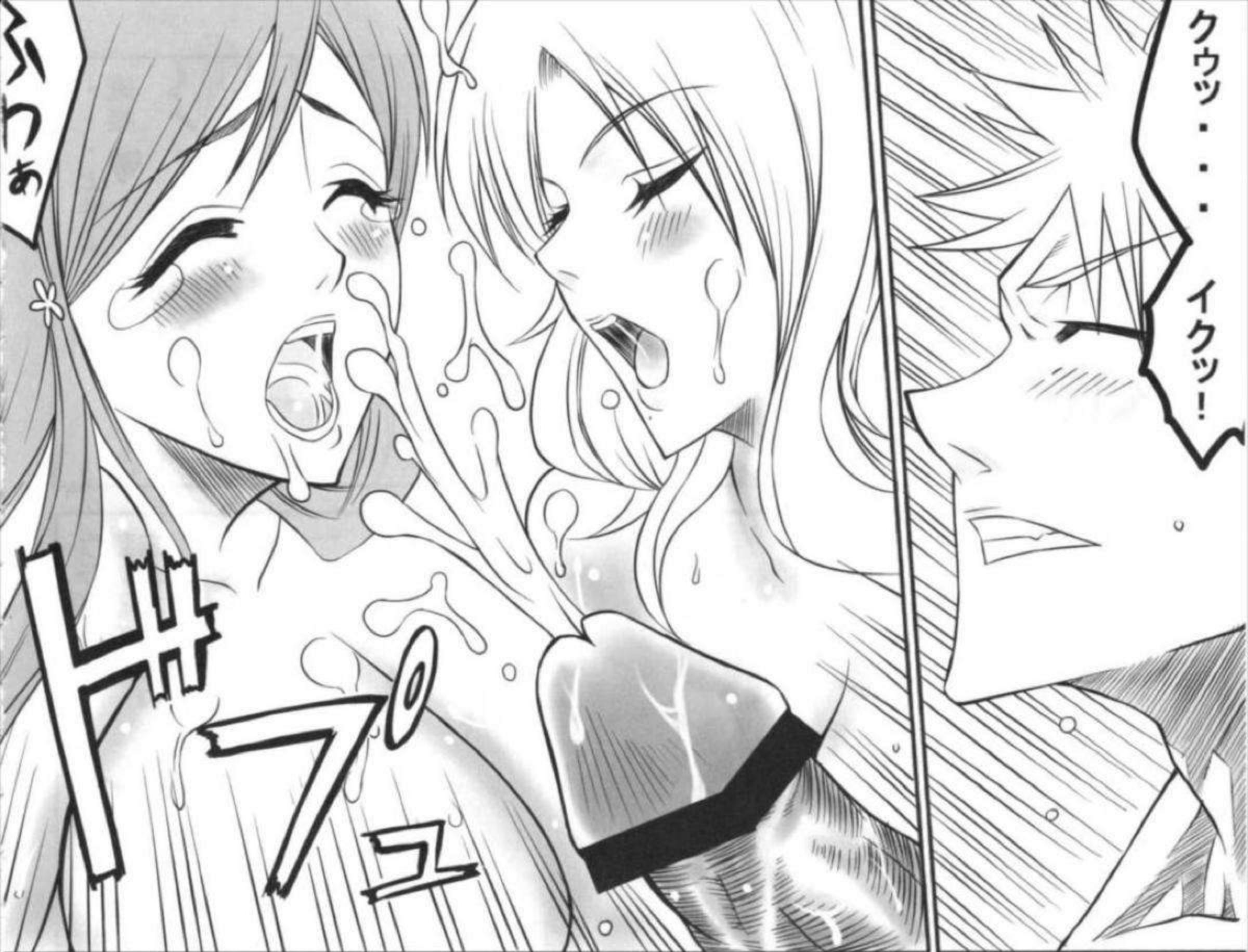


・・・さあ

あ吸思いいつきり  
あげなさいて  
♥



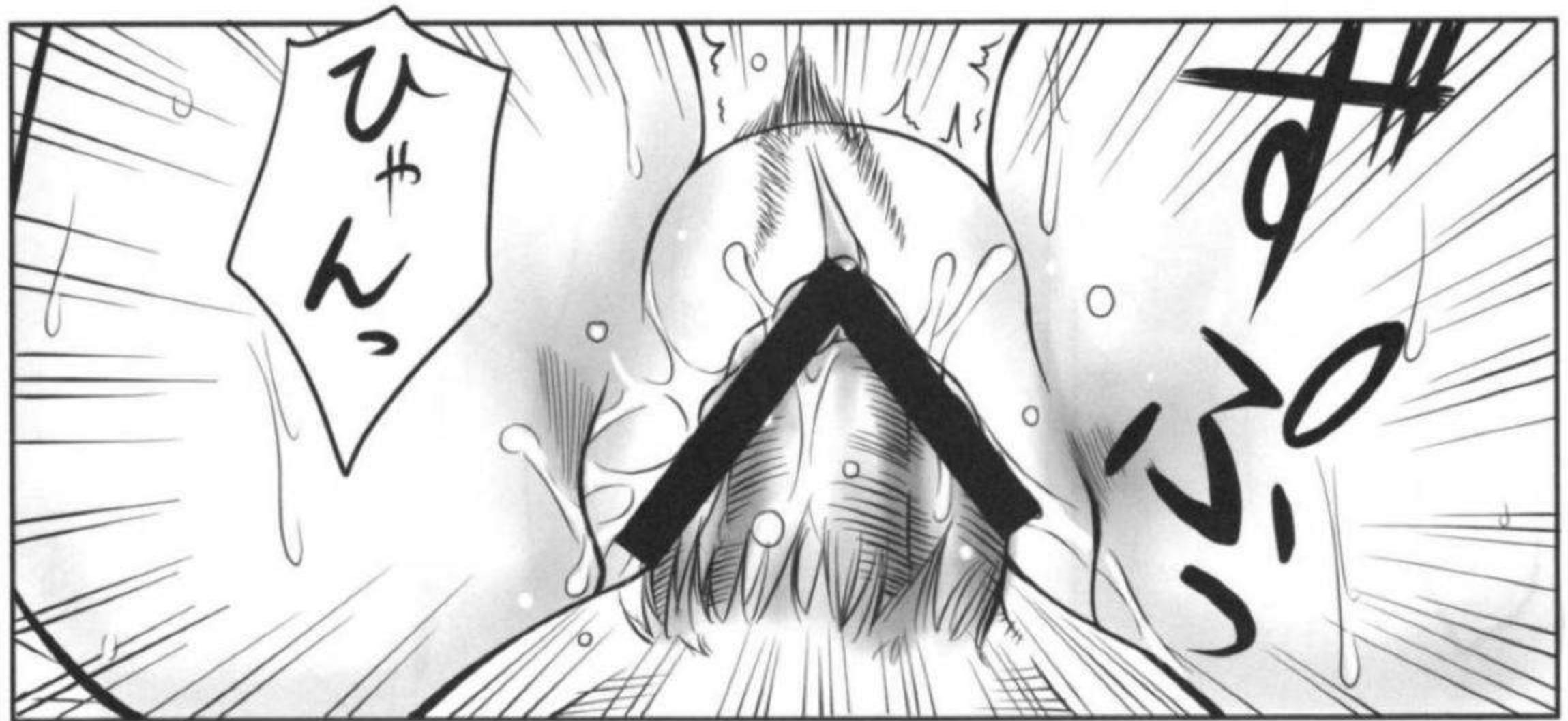
クウッ・・・・イクッ!













黒崎君  
・  
・  
・  
・  
・めんね

勢い  
こ  
せん  
な事  
で  
ちやつ  
て  
・  
・  
・

オレ  
うれ  
しい  
よ  
・  
・  
・  
・  
・す  
げ  
え

何言  
つて  
ん  
だ  
よ  
・  
・  
・

私も  
うれ  
しい  
・  
・  
・  
・

エ  
ヘ  
ヘ  
・  
・  
・





黒崎くん♥



グッ



テメエはホント  
何やつてもへタクソだな！

キヤー

オレが本当の  
女奥のイカせ方つてのを  
見せてやるぜ！

ハツ！





珍起松本が先に  
起きるなん  
珍しいな  
なんて

ボリ  
ボリ

冬獅朗は  
…

乱菊に  
イタズラされた  
(笑)

失礼します

出報昨日・  
報告書の隊首会の  
さないと  
…



持つて来ました



可愛  
いよ  
いや

ハッキリ

乱菊に  
イタズラされた  
(笑)

どうかしま  
したか?

## あとがき

この度はオイラの同人誌を購入していただき  
本当にありがとうございます^ ^  
早いものでもう3冊目です(笑)  
今回は、以前から描いてみたかった織姫×一護を  
描く事が出来てとても楽しかったです^ ^  
詰め込みすぎてオマケ四コマを載せる場所がなくなってしましましたが  
正直ネタ切れしていたのでホッとしてます(オイ!笑)  
次回は虚化した一護にちょっとイジメられちゃう織姫の話を  
描いてみたいと思っています^ ^  
そしてまた冬コミに参加できたら良いなあと思ってるんですが  
時期的に難しそうです(笑)

それでは、相変わらず硬い文章になってしましましたが(笑)  
最後にオイラの本を購入していただき本当にありがとうございました^ ^

ドゥンガ

## 奥付

□誌名 織

□サークル名 ヘタの横好き

□作者 ドゥンガ

□印刷・製本 金沢印刷

□HP <http://blog.so-net.ne.jp/motemote/>

□発行日 2007年8月18日

## 無断転載厳禁

18歳未満の方の購入 閲覧を禁じます。

FOR ADURT ONLY

he

ヘタの横好き・コミックス

**舌乱** 菊のハチャメチャお色気大作戦で  
多少のハプニングはあったものの  
見事（？）結ばれた一護と織姫。  
そして一人残された冬獅郎は・・・。